

「新型インフルエンザ？」の大騒ぎ

2009年4月、突然「新型インフルエンザ」だといって、空港や港湾の入国管理がきびしくなった。メキシコからとは、じつは意表をつかれた。豚インフルエンザということになっているが、事実かどうかは別である。新型ウィルスが出現するのは鳥型インフルエンザが多いと報道されているインドネシアかSARSの中国か、場合によれば東南アジアのどこかかな、と漠然と考えていたから。今、米国もカナダもヨーロッパも全世界が大騒ぎをしているのだが、日本だけが入国規制をしているのだという。あんなもん、テロのようにウィルスを持ち込もうと思わなくても、いつのまにか気づいたら発病する前（つまり潜伏期間）に入国してしまっていて、それが他の人に感染して、というようなことはいくらでもある。ましてや、まだインフルエンザの性質がわからない段階で「不幸にして感染したかもしれない（実際には感染していなかったのだが、これに対してだれか責任をとったとかいう話は聞こえてこないようだ。）」子供まで「憎しみの対象」のように村八分にするのは間違っている。

今回の「メキシコ風邪」（と呼ぶのが妥当ではないだろうか）で、従来みられてきたインフルエンザと異なるのが、25%ほどに消化器

症状があること、潜伏期間が通常の 18~72 時間より長くても 3 倍くらいか（これも確実ではない）、あるいは高齢者がかからず高校生や中学生といった若い年齢層が主に感染しているのでは、といったところであり、どうも騒げば騒ぐほど、実態と乖離しているような気がする。H₁N₁なら毒性もそれほど強くなく、いわゆるソ連風邪とよく似た程度のものなのか。

最大の問題が、国（厚生省）の姿勢である。現在「新型」と考えてタミフルなどの備蓄を続け、ワクチン開発に積極的になっているのは、H₅N₁の鳥型インフルエンザであり、これは死亡率も 60%を超えるといわれていて、これが世界中に蔓延すれば、経済だけではなく政治にまで影響を及ぼしかねない。

ところが、これを忘れたかのようにワクチンの製造も「メキシコ風邪」に Shift Change（方向転換）しそうな話をする。何もないのに、近くに座っていただけで 10 日間、のち 7 日になったが、この無駄な時間を取りもどすことはできない。

これなら、黒木将軍に脅えたロシアの司令官クロパトキンがわざわざ日本軍に「勝たせてくれた」ような奉天会戦と変わらないではないか。

インドネシアでの調査で、すでに豚で鳥型インフルエンザ・ウィルスをもつものが10%を超えているという戦慄の報告がある。豚はヒト→ヒト型への変異に大きな役割を果たす。エジプトでは豚を焼却処分する騒ぎが発生しているが、経済的に十分な補償が先であろう。さらには、もっとも大切なことであるが、潜伏期間も考えずに「水際作戦」をおこなっているが、はっきり言おう、**無駄以外の何者でもない**。日夜駆けずり回っている検疫官はすでに気力・体力の限界を超えているだろうし、追い討ちをかけるようで申し訳ないが、努力が報われることはないだろう。今、海外旅行をしていない高校生の中に「メキシコ風邪」が急速に広がりつつある。初めは数人だがアツという間に数百人の単位になるだろう。彼ら検疫官たちは今心身ともに虚脱感におそわれているのではないか。

潜伏期間にある人がとりあえず検問にひっかからなくて帰宅してから発病する可能性もある。ウィルスだけ持ち込んで何も無い人もあるだろう。最初にも述べたが、感染したからといって誰が悪いとかという問題ではない。・・・ボクがマスクをせよというのは、飛行機の中であるが、それは空調の問題で咽喉の炎症の予防のために湿気を多く含む空気を吸うためである。

水際作戦が奏功する感染症もあるだろうが、今回に関してはまず駄目だろう。それなら、大臣や知事のいらざるパフォーマンスは邪魔だから、沈黙してもらおう。現に検疫官たちは、厚生相（これがまたスタンドプレーの好きなオッチョコチョイで、まともなブレーンがないのだろうか？ それともこの男の独断だろうか？）この男の思惑がはずれて仕事に対する情熱が消えかかっている。単なる人気取り、あるいはマスコミ受けするいわば仕事をしているフリのために多大の損失（時間と体力と気力）を負ってしまった。「新型」インフルエンザ感染症専門の野戦病院のようなものを今からでもいから直ちに設置し、途中の経路も特別仕立てで用意し、とこういうことは府県単位ですでに一朝ことあるときは、とあらかじめ準備し、すでに実施しておくべきなのである。阪神大震災のことが教訓になっていない。その職にあるものが率先して準備するべきものなのであるが、公務員の給料がどうのこうのいう前にまず働け！ 「会議」はいらない！ 自衛隊の（ちょうど防衛医大教授の冤罪事件もあったし）災害医療チーム（注：阪神大震災のときにボランティアで行った神戸で見学させてもらったが、すごい施設である。）などを最大限に駆使し、トップダウン方式で決定するべきである。考えて

もみよ。開業医には診断・治療に「会議」なんかしている暇はない。
即戦即決である。

まだ大きな問題があるのだが、つまりこの「メキシコ風邪」の危険性である。どの程度の致死率か、ということは大切で、どうやらメキシコの数字が大きすぎて狂った数字がでたが、どうも0.4%から1~2%程度らしい。それなら従来のインフルエンザと変わらない。誤解している向きも多いのだが、「ソ連風邪」や「香港風邪」という（「季節性」という表現を使っているようだが、）インフルエンザは、「治る」病気ではあるけれども決して「死なない」病気ではないのである。

仮に「新型・メキシコ風邪」に感染してしまったとしても適切な治療を施せばなんとかなるのではないか。ボクならリレンザを使用するが、やはりタミフルを使っているのだろうなあ。・・・ただし、わざわざ感染するためになんらかの動きをしている連中がいるようであるが、これは倫理に悖るし、第一何が発生するかわからないものをわざわざ感染する必要はないし、危険でもある。自分たちだけが危険なのはほっといたらいいのだが、他の人に悪影響をおよぼすなら、これは抹殺しなければならない。かれらの言い分で、

今かかっておけば軽症ですむ、というならわざわざ感染実験する必要もない。いやでもかかります！　　こういうのを愚の骨頂という。当然ながら感染しないほうがいいにきまっている。生命の危険を冒す必要はない。・・・ここで大きな問題が甦る。たしか10代の子供にはタミフルを処方してはいけないことになっていたはずである。その禁が解除されたという話は聞いていない。・・・最近、漢方薬の「麻黄湯」がタミフルを凌駕するような結果が報告されているが、「メキシコ風邪」ではまだそうかどうかわからない。つまり、誰も何もわからないことだらけなのである。

2009. 05. 16.

メキシコ人旅行者が香港に到着した時点で、このインフルエンザであることがわかった。すると、中国首脳だかが、「そんなもん、持ち込んでくるな！」と苦情をいい、なおかつ、無関係のメキシコ人を含めて数時間も水もトイレもないところに監禁したという。メキシコ大統領が偉いのだが、ただちに反撃して「SARSのときに情報を隠蔽して世界中に広めてしまったのはどこの国の話だったろう？」そして即刻メキシコ政府の特別機が香港に飛んで、希望したメキシ

マスク狂騒曲みたいなことが現実には発生している。どこも品切れだし、消毒液も不足だらけである。製造発売元のサラヤさんで 24 時間フル稼働でも追いつかないという。神戸も大阪も「メキシコ風邪」でひっくりかえっているが、これが Phase6 に格上げされたら、経済的に破綻するかもしれない。みな、もっと冷静になって、ここまでは大丈夫、ここからは危険という指標のようなものを早急に作成すべきである。・・・そのうち東京にまで進んだら政府も本腰を入れて対処しようとするだろう。時間の問題です。

たとえば満員電車に乗らないようにする、とか、込み合ったバスは敬遠するとか、つまり歩け！ 高校の場所からみればモノレールも危ないかもしれない。そうしているうちに Phase6 になる。するとオイルショックのときのようにパニックになるだけ。世界中から飛行機が飛んでくるのをやめろ、とでも言うのだろうか。